

## 第四章

汚れに対してとても敏感になってきたのです。

勉強のストレスが原因なのか。今まで全くというほど汚れに対して気にしない性格でしたが、常に手を洗いたい衝動にかられ、石鹸を使用してしっかりと洗わないと気が済まないのです。

公共の物は全て汚く感じ、帰宅すると手洗いをするまで家の物には触れられません。また玄関先で服やカバンに汚れが付着していないかを入念に確認をしないと自宅にも入ることができなくなり、日々心身が疲弊するため家から出ることも億劫になってきました。勉強にも集中できなくなり、常に緊張状態で過ごしていた記憶があります。

そんな中、隣の201号室に新しい入居者が引っ越されてきました。

母親と高校生くらいの息子さんかと思われます。あまり顔を合わすこともなく、たまに隣から親子の会話が聞こえてくるくらいで静かに生活をされている印象でした。

しかし半年くらい過ぎたあたりでしょうか。聞き慣れない音が続くようになったのです。

「ガチャドンドン」「ガチャドンドン」

明らかに玄関のカギを開け閉めし、その確認を何回も行っているのです。当初は母親だけがその行為をいつからか行うようになったのですが、いつの間にか息子さんも同じ行動をし始めていました。急に用心深くなり始めたのか、理由は全くわかりません。

時が経ち、私が入居してから4年程が経過しましたが、成績も中々上がらない状態で恥ずかしながら試験にも毎年不合格となっております。

そこで今の環境自体を変えたくなり、お金がある程度貯まってきたのもあって引っ越すことを考え始めました。そして不動産屋さんを訪ね、物件の見学も行きだした頃です。

タイミングが悪く、長年使用していた家電が次々と壊れ、さらにアルバイトの日数も減少したりと収支が赤字に急転してしまいました。貯めていた貯金はほぼ無くなり、引っ越し費用が工面できなくなったのです。

引っ越す気力も徐々に失っていき、諦めてこのままの生活を続けていこうかという気にもなっておりました。

そしてまた普段通り毎日の生活を送っている中、聞き覚えのある音が聞こえてきたのです。

「バ」「ワ」の連呼です。

まさに昔、201号室の女性が発していたものです。

ただ今回の声は、高齢の男性の声だったのです。